

「コロナ下」での一斉休校 ―その時何があったのか (1) ―東京都公立中学校校長小澤雅人氏ヒアリング記録 その1―

広瀬 裕子

1 はじめに

新型コロナウイルス (Covid-19) の感染拡大という未曾有の緊急事態の中で学校は右往左往の対応を迫られた。感染拡大を受けて、政府から公立小中学校の一斉休校の方針が発表されたのは2020年2月27日である。週末直前のこの発表を受けて各地の教育委員会および学校現場は慌ただしく動くことになる。中央政府の動向や各地の子どもたちの状況などが連日のように報道される一方で、学校ガバナンスがどのように機能したのかに関する報道はほとんどされなかった。休校対応の情報はどこからどこへどのように伝達され、誰がいつ何を判断したのか。時間の経過と共に消えゆく当時の情報を記録に留めることは急務である。学校レベルでのガバナンスに焦点を当てて、コロナ禍での対応について校長、教育長、教育委員会関係者などからのヒアリングを開始した。ここでは小澤雅人氏 (東京都杉並区立荻窪中学校校長) に対するヒアリングを整理する。

ヒアリングは、2020年11月27日、2021年1月28日および2021年2月19日に3回に分けてオンラインで実施した。小澤氏は2017年度には東京都の中学校長会副会長、2018年度には同会長を務め、教育委員会勤務の経験も持つなど、学校内のガバナンスにとどまらずに地方教育行政の動きについても知見を有しておられる。聞き取り対象時期は、同氏の杉並区立阿佐ヶ谷中学校から同区内荻窪中学校への異動を挟んだ時期となっている。ヒアリングは専修大学社会科学研究所グループ研究の研究会に位置付けて実施し、初回については日本教育政策学会会員企画研究会と共催して公開で実施した。小澤氏に事前作成の資料をもとに概要説明をいただき、それを受けて荒井英治郎氏 (信州大学) にインタビュー形式での聞き取り役を務めていただいた。使用した資料は文末に掲載した。

本稿では、11月27日開催の研究会の内容もとにまとめている。休校要請を受けた年度末の対応が中心内容である。長時間にわたる聞き取り内容を重複など精査した上でなるべく話のニュアンスを生かしながらまとめた。文責は広瀬にある。

2 休校要請を受けての学年末の対応

トピック：

授業、学校行事、情報伝達、高校入試対応、インフルエンザ、卒業式、臨時登校形式、保護者会、感染対策、家庭状況把握、教育委員会、校長会、教職員対応

小澤：2020年が明けた1月7日が始業式で、この頃に中国四川省方面での新たな感染症を伝えるニュースがありました。かつて2009年の春から夏に新型のインフルエンザが流行した頃、私は教育委員会にいましたが学校と協議していたことを思い出しました。2020年1月16日にはコロナの国内感染が報道され、スキーの移動教室が始まる時期なので不安はありましたが危機感はまだありませんでした。一部の学校に保護者から問い合わせや、感染の不安から参加しないという申し出があったことや、2月下旬にスキーの移動教室を予定していた学校が中止したことは後に知りました。本校（阿佐ヶ谷中学校）では、例年1月中旬からインフルエンザ感染防止（マスク着用、手洗い、うがい、換気）に取り組み、登校した子どもたちの健康チェック（熱っぽくないか、だるさはどうとか）を毎朝のホームルームでしています。この頃に、区内学校の特別支援学級連合のスキー移動教室を連合して行く協議を進めていました。

1月下旬に、都からとして区の教育委員会から新型コロナウイルス感染症に関する中国からの帰国者への対応や、感染予防についての通知と指示があり、その通知をひな型として学校が各家庭に、中国から帰国した子どもがいる家族は感染確認をし帰国後2週間してから登校等について判断することなどを伝えました（資料2）。

しだいに国内の感染の情報が入ってくるようになり、感染に対する学校対応の協議や2月3月の学校行事や授業に関する対策協議が始まりました。1月上旬の校長が集まる会では教育委員会からの指示は新型コロナよりはインフルエンザについての注意喚起や対策についてでしたが、中旬以降になると、新型コロナに関する情報提供が増えました。神奈川に到着したクルーズ船内の感染の情報が入ったり、国内感染のリスクも出てきたりしたので、学校の行事や校外活動等についての対策や見直しをしました。3年生の入学試験への対応については苦慮しました。試験や出願の仕方ですが、中止にはせずに行く時にはインフルエンザと同じようにマスク手洗い励行など事前指導して対応することにしました。2月初旬の毎月1回の定例の校長会では、教育委員会から感染拡大を防止するための指示が出ました。マスク、手洗い、そして給食はグループで机を付けずに教室の前の黒板を向いて食べるようにという内容で、学校ではそのように対応していきました。

2月中旬には特別支援学級の連合のスキー移動教室が始まるため、遅くとも10日前には最終的な決断をしなければなりません。通常学級中心のスキー教室は実施の方向でしたので行うこ

とし、バス内でのレクや現地での集会行事、卒業を祝う行事はせずにスキーレッスン中心にすることにしました。

卒業式について区の教育委員会からはこの段階では具体的な指示はなく、実施を前提に運営や中身を考えていきました。本校が毎年3月初旬に行っている春の子どもまつりという地域の青少年健全育成を中心にした小学校、中学校との連携の行事は、2月21日に中止を決めました。一般の人たちも来るので感染リスクを回避するためです。3月初旬の保護者会は教育委員会から開催中止もしくは延期の方針が示され、2月25日に中止もしくは延期とお知らせを出しました。感染情報がたくさん入ってくるようになる場合に備えて、各学校では2月中旬頃からインフルエンザと同じような学級閉鎖、学年閉鎖または学校閉鎖を考えはじめ、中学校の地区の校長会でも情報交換していくことになりました。

2月27日(木)に国から休校要請が出ます。その前日(26日水曜日)にたまたま地区の指導課の課長と連絡していて、その際に東京都がこの休校要請を受けて検討に入り対応をするという情報が入ったので、学校として対応をする準備をしました。資料5は、2月27日に決めた3月の活動についての対応内容の一覧です。中止や延期、また内容変更しながら準備しました。2月28日(金)に東京都教育委員会から都内各教育委員会に休校対応の要請が出て、教育委員会からは2月28日昼過ぎに指示があり、各学校はそれを受けて対応の決定をしました。28日午前中から校内でさまざま内部調整をしていきました。まずは残り1カ月の学習について考えました。この段階では年間のカリキュラムはほぼ終わっていましたので、子どもたちには確認のための課題を準備しようと思いましたが、本校では4年ほど前から区の教育委員会の承認を得て放課後の補充学習や授業のワーク用に業者と契約してウェブ教材の配信を受けていたので、この教材を家庭に配信することができないかを協議し、業者からは臨時に家庭配信できるということになり、3月から休校になった場合に備えて家庭に臨時IDを配給する準備をしました。

資料6は、28日の休校措置の指示を受けて作ったお知らせです。卒業式は、保護者から不安が出ると思いました。区の教育委員会からは卒業生と在校生を入れることは可能、来賓の参加は制限、保護者は1名程度と指示がありました。時間短縮の指示もあり、これをベースに式の中身を考えました。区から卒業式を簡素化する指示は、歌や子どもたちの活動はキャンセルし、証書の授与と学校長の式辞のみの20分から30分程度のものにするという内容です。それに対して各学校で3年生の職員や保護者に強い憤りがあり、幾つかの学校と下打ち合わせをして対応を工夫しました。私の学校ではPTAの代表、3年生の職員、生徒たちと話をして1時間強の式にし、私の式辞は10分程度のものを2分ぐらいに縮め、式辞代弁として子どもたちが3年間の思い出を話すなどしました。

2月28日には定期考査が終わりました。3月2日(月)には都立の入学選抜の発表がありま

すが、都や区からは3月に入った月曜日から休校対応してほしいと出ていたのでそれを無視するわけにはいかず、1年生と2年生は休校措置にして、3年生だけ臨時に登校させてそのまま発表を見に行かせて2日と3日に事後対応することにしました。

資料7は2月の28日に作った、新型コロナウイルス対応で3月2日から3月25日まで休校するお知らせです。子どもたちとは3週間全くコンタクト取らないということではなく、19日と25日に臨時登校させて課題等の提示と確認、子どもの健康チェックや家庭の学習状況について把握することにしました。その後、卒業式について区から変更の通知があり、卒業生とその保護者（できれば1名）、あとは教職員のみで実施をしてほしいということになり、そのようなかたちになりました。1、2年生の修了式は25日に実施する通知をしました。

これ（資料1）にあるように、休校中は毎週1回木曜か金曜日に学年ごとに時間を違えて課題指示のため臨時登校にしました。3年生は卒業式の直前に短い時間ですが事前指導をするように指示しました。臨時休校中には電話で子どもの健康の確認をしたり、感染対策の消耗品や備品のチェック、新年度の準備などを行いました。消耗品や備品は、この時期には発注しても在庫がないということが多々あり苦労しました。

3 インタビュー&質疑

トピック：

中止と延期の基準、保護者反応、校長の横の繋がり、在宅勤務、web教材、子どものストレス、学級閉鎖と学校閉鎖の判断、私立学校

荒井：国内で感染確認された1月16日の段階で、臨時休校のリスクがインフルエンザと同じレベルであり得るという認識はありましたか。

小澤：正直言うとそこまでの話は学校の中では出ていませんでした。例年どおりインフルエンザへの対応を中心に話をしていました。

荒井：学校側のメッセージとして幾つか通知が出ています。この事態の中で学校から発出する通知のルールはどのようなものでしたか。校長単体で即出せるのかどうか、関係機関とのバランス、区教委に内容確認していたのかなど、どうでしたか。

小澤：1月31日の「新型コロナ感染への注意喚起の家庭通知」（資料2）は、ひな型が教育委員会から送られてきたので文面はほぼ教育委員会が作ったものです。

荒井：このファーストメッセージに対する保護者等々からのリアクションはいかがでしたか。

小澤：阿佐ヶ谷中学校では直接の連絡はありませんでした。教育委員会には、この通知を出す前からコロナの感染について学校や教育委員会はどうか対応するのかという問い合わせがあった

ことを2月の校長会で聞きました。

荒井：旧正月もありましたが、小澤先生の学校には外国由来のお子さんは多く在籍していますか。

小澤：全校で数名が外国籍の生徒です。

荒井：2月の定例校長会での指示は、区教委も同席して区教委から下りてきた指示ですか。

小澤：はい。教育委員会の役所に全校長が毎月1回集合して、そこで教育委員会からさまざまな行政説明と指示が出ます。

荒井：校長会の雰囲気としては2月に入った段階での危機感ほどの程度でしたか。

小澤：1月の初旬から比べると学校現場としてもインフルエンザと同等ぐらいにコロナ対策を考えないといけないというふうにはなっていました。国内の感染例の情報がまだ多くはなかったのですが、どう対応しようか、という感じでした。

荒井：そのような中で、2月中旬の段階で3月に予定されていた子どもまつりが中止されていますが、阿佐ヶ谷の比較的大きいイベントだと思うのですが、地域の方々からの反響や問い合わせはどうでしたか。

小澤：ぎりぎりまで中止の判断を延ばして2週間前ぐらいがタイムリミットでした。地域からはしょうがないねという感じで、批判めいた声よりも残念だという声のほうが多かったです。

荒井：2月下旬の保護者会は延期になっていますが、中止ではなくて延期にした理由はなんですか。またPTAの皆さんの反応はどうでしたか。

小澤：PTAからは最後の学級懇談の要望がありました。職員からも3年生は保護者と職員、担任とが密接に話ができる最後になるのでできればやりたいという声があり、感染状況を見て中止も視野には入れましたが、1週間様子を見てその段階で延期を判断しました。

広瀬：教育委員会から学校に直接下りてくる情報と、校長会を通じて下りてくる情報の違いは何かありますか。

小澤：定例の校長会はその段階で情報提供できるものは教育委員会から直接全校長に、そうでないものはメールで教育委員会から通知のひな型や指示が来ることが多いです。1月末には教育委員会からメールで各学校に通知が来て、2月4日は全体が集まって口頭で指示を得ました。

広瀬：内容での区別ではないのですね。

小澤：はい、緊急性のあるものについてはメールで、もっと緊急性があり周知しなければならない場合には臨時で校長会が開かれることもあります。

荒井：2月27日の休校要請の時には臨時校長会はなかったわけですが、2月28日（金）は校長と教育委員会の1本のラインで動いていたのですか、近隣の校長同士で受け止めについてやりとりがあったのですか。

小澤：区内の中学校校長は23人、小学校が約40名います。中学校小学校それぞれの校長会の役員6、7人が集まる校長役員会で伝達されて、そこから指示があることもよくあります。今回も地区の校長会長と教育委員会でやりとりがあり、校長会長から各校長にメールで今こういう状況だという情報が提供され、近隣の学校や校長会で電話等での情報共有をやっていました。28日に都教委から通知が来ることも案文としては午前中には来ていて、それを基にして実際の対応を各学校で検討しました。

荒井：通知に関しては範囲や出す時期など、細かなことは管理職、一校長レベルの融通が利くものでしたか、それとも緊急対応ということで余地はないものでしたか。

小澤：今回の臨時休校については、2月下旬には学校現場としてはそこまで考えていませんでした。臨時休校したとしてもせいぜい1日か2日程度かという感触でした。けれど、28日に都教委から3月の頭から休校対応をしてほしいと要請があり、うちの区としてその日から休校するかどうかは考える余地はあったと思うのですが、学校とすればできればもう1日か2日、3年生の対応もあるので休校時期はずらしてほしいと正直思いました。でも、要請が出てきたのでやむを得ない、と対応しました。

広瀬：28日に都の教育委員会から区の教育委員会に休校というのが来て、それを受けて区は即座に各学校に伝達したのでしょうか、それとも区でも何か判断をされたか聞いていますか。

小澤：その前の日に私が区の課長と電話をしていたときに、東京都から翌日通知が来るのが出た段階で再度区として検討して判断をすると聞きましたので、多分28日の午前中に都教委から各教育委員会に通知が来て、それぞれの地区で再度検討して対応したのだと思います。私がいた区では、3月2日から休校することにしましたが、ほかの地区では1日ずらして休校したとあとで聞いています。

広瀬：都からの情報を事前に知っていたので、多少各自で検討をしていたんですね。

小澤：教育委員会には東京都から、前日の段階で、国からこういう指示が来たので都教委では28日の午前中に各教育委員会に通知をするという連絡が入っていたそうです。で、学校には28日のお昼近くにひな型が来て、午後に正式に通知が来ました。

広瀬：都から来たならそのまま区が動いた感じですね。

小澤：はい。前の段階で区としても幾つかのパターンを考えていて、東京都から来た通知を受けてすぐ最終判断をしたと、あとで聞きました。

荒井：2月29日と3月1日は土日ですが、全職員に学校に来てもらったのですか。

小澤：いや、27日の段階で、休校の場合の対応について職員と何度か打ち合わせしました。28日までが学校の学年末考査で、考査は午前中で終わりましたので午後には会議する時間があり、学年対応含めていろいろな文書を検討して決定しました。通知については、子どもたちに配る

もの、家庭配信のもの、ホームページ掲載のものを用意しました。

荒井：通知を受けて保護者等々からの問い合わせや反応は怎么样了か。

小澤：ご意見はそれほど多くなかったです。春の子どもまつりと同じようにやむを得ないというのがありました。3年生の保護者から卒業式や卒業行事はどうなるのかという問い合わせが何件ありました。

広瀬：週末に学校から各家庭に休校のお知らせはどういう手段でしたのですか。

小澤：子どもたちが下校する段階で通知の用紙を配ると同時に、緊急メールを使って配信し、学校ホームページにも掲載しました。

広瀬：お手紙を持たせるのが間に合ったという感じですね。

小澤：ぎりぎり、区から来るのを待って、本当にそこで作って出した感じです。

荒井：(資料5) 中止と実施のものが混在していますが、中止と実施を分けるのは何を基準に判断されましたか。

小澤：最終的にはほとんどが中止になりました。阿佐中サミットなど近隣小学校の児童が来るものなど本校以外の人たちが来るものは基本的に中止にしました。保護者会は行うけれども、飲食を伴う茶話会は中止にしました。能楽教室は、本校はここ数年伝統文化に取り組んでいて、オリンピック、パラリンピックがあるのでできればやりたいという思いがあり実施しました。同じ日にやる3年生を送る会は特別支援学級ですが、せめてこの会だけは3年生の思い出づくりにやろうと。ですので、本校の生徒たち中心に行うものは可能な限り実施、学校以外の方々に参加するものについては基本的に中止、これを1つの判断基準にしました。

荒井：休校の期間は地方により長いところも短いところもありましたが、3月2日から25日までという休校日程は卒業式と修了式の計画と関係していますか。

小澤：区のほうから3月2日から25日までという休校措置の指示が来たのでそれに沿いました。で、3月19日の卒業式と25日の修了式は除くというかたちにしました。

荒井：臨時校長会で何か印象に残っているやりとりやエピソードはありますか。

小澤：休校が始まった3月2日に臨時の校長会が開催され、主要には教育委員会として卒業式にどのようなスタンスを取ったらよいかについて各校長からの意見聴取がなされました。各校長からは臨時休校はやむを得ないと。ただ、卒業式はできるだけ3年生の思いに応じていきたいという意見が出ていました。

荒井：在宅勤務の指示についてですが、民間企業では時短勤務やテレワークなどのスタイルがありますけれども、学校管理規則上のルールは東京都、あるいは区として制度として整っていたのか、在宅勤務の勤務時間管理などはどうだったでしょうか。

小澤：在宅の勤務については規定がなく苦勞しました。在宅の勤務というより自宅への出張扱

いの服務規程にすることになりました。これは、かつて長期休業中の研修について服務上フアジーな時代があったので、その方法を使うのは厳しいという指示が多分東京都の方からあったのだろうとは思っています。で、学校として、3月は1年間の成績処理や次年度に向けての準備がありますし、異動等の準備をしなければならない職員もいるので一律に対応するわけにいかず、必要に応じて在宅での勤務も可能と指示しました。

荒井：いわゆる自宅研修の扱いをどうするかという論点に関わることですね。

小澤：はい。自宅研修という言葉は、今は使わないようにしているので、自宅勤務でなくて在宅という言葉に置き換えているのもそこからきていると思われます。

荒井：過去のさまざまな批判を反映してという意味合いですね。

小澤：そうですね。

広瀬：小澤先生の学校がもしウェブ教材の契約をしていなかったら、どうされましたか。

小澤：他校では、コピーしても可能な教材や普段授業等で使っているワークを宿題として課題指示したことは聞いております。本校もそういうことを併用する話があったのですが、プリントを作る時間的なロスを考え、使っているウェブ教材に同様なものがあるので使っていこうと決めました。

広瀬：他校も大体似たようなことをされていたのか、それともそれぞれ違っていたのか、もしご存じだったら教えてほしいのですが。

小澤：全体で集まる会は多くはなかったですが、学校間で電話の情報交換は盛んにやっていたので、大きな違いはなかったと思います。近隣の区とも情報共有して、それぞれの区や市で行っていることについても情報把握しながら学校または地区としての対応を考えていきました。

広瀬：わりと横の情報共有があったんですね。

小澤：必要に応じてそれぞれの校長が、うちの区では23校を4つのグループに分けてグループ制を敷いているので、その中での情報共有は大きかったと思います。

広瀬：情報共有のネットワークをここでも使っていた感じですね。

小澤：そうですね。頻繁に情報交換をやって、その中で区から来る指示や国からの情報等も吸い上げて判断をしました。

広瀬：教職員の在宅勤務ですが、大学だといろいろなツールを使いながら通常とあまり変わらない仕事をするイメージですが、中学校の場合は教諭が在宅でオンラインでつながるのですか、どういう仕事のイメージになりますか。

小澤：オンラインでやれる状況は多くはなく、在宅勤務も可能としましたがほとんど学校で勤務をしていました。1日いないことや途中で時間等の休暇を取る者は何人かいましたが。個人

情報を家庭に持って行くことはできないので、家庭でやっていたのは教材研究などが多かったと思います。

広瀬：実質在宅勤務をする環境というか、それがあつたわけではないということですね。

小澤：3月の休校措置も急に決まった感じなので、ICT上在宅勤務にすぐ対応できるようなものはなかったです。

広瀬：究極の質問ですが、もし休校要請が上から下りてこなくて独自に判断していい、逆に言えば独自に判断しろということだったら、このコロナの中でどういうふうにされたと思いますか。

小澤：2月に学校の中で検討していたのは、3年生についても1、2年生についても時間短縮で帰すということ、3年生は卒業関連の行事や入試があつたので休校ではないかたちで対応できたらと考えていました。1、2年生は、状況によって短期間の休校もありうるというような話はしていました。

小峰：ウェブ教材の意思決定のスピードが早かつたようですが、このあたりに先生の中に抵抗感があつたのかなかつたのか、また、ICT環境の家庭の格差についてキャッチできるような状況にあつたのかどうか、杉並の中学校は割とウェブ教材を使つていたのか、教えてください。

小澤：ウェブ教材は4年ほど前から使用していました。放課後の補充学習でワークブックなどを教員が用意することを考えると、ウェブ教材の利便性が高いと思い、他県の例で知つた会社と交渉しました。学校の特色ある教育活動のプレゼンを行い、認められて配信することができました。放課後だけの学習ではもつたいないので、授業で使うワークブック、5分、10分の朝学習でも利用しようと考えました。さらに家庭での学習教材としても活用できるとも思っていましたので、将来は家庭配信も考えていました。ICT環境がないご家庭もごくわずかありましたので、学校でプリントアウトしたものを子どもたちに渡し、週に1回臨時登校日を設けて学習状況を把握しました。職員は、この教材を4年ほど利用しているので違和感はなかつたと思います。

間宮：生徒たちへの説明はどうされたのか、それを受けて生徒たちはどのような反応であつたのか、生徒たちのケアに関して何かなされたのか、お願いします。

小澤：休校についての生徒たちへの説明は、短期間での決定だったので、2月28日にコロナ感染の不安があるので約3週間休校すると全体に話をし、各学級でも指導をしました。子どもたちの状況については、1週間ぐらいの間に近隣から子どもたちが公園等で遊んでいるというお叱りの電話が何本か入りました。子どもたちは家に1人であるのがつまらないのか、LINE等で連絡を取つて遊んでいたようです。登校してきたときに、気持ちは分かるけれど今ここでみんなであつて少し頑張つていこうという話をしました。短い期間であれば、子どもたちもしょうがな

いと我慢できたと思いますが、長くなるにつれて少しずつストレスが出ているのか、1週間2週間と過ぎていくと、登校してきたときの子どもたちの関わり合いの強さというような姿が見えました。

広瀬：ストレスのあたり、具体的にもうちょっとお願いできますか。

小澤：寂しい、家にいてもやることがない、宿題なんかすぐに終わって時間が余ってしょうがない、そういう言葉がはじめのころありました。表情も、学校に来たときは明るくなるけれども、下校していくときにはなかなか仲間と離れないような感じを見かけました。

広瀬：登校日には一斉に登校させるのですか、それとも人数を半分半分みたいにするのですか。

小澤：学年の登校時間を変えて、この時間から1年生、この時間から2年生、この時間は3年生というようにしました。

永島：感染者が実際に生徒に出てきたときの判断が気になるのですが、学級閉鎖や学校閉鎖の判断を教えてください。

小澤：インフルエンザの場合には学校長判断です。東京都やうちの区で使われている判断基準は、クラスの在籍児童生徒の2割弱が罹患（りかん）した場合には措置を取るというものです。30名程度の児童生徒がいる場合には、5、6人ぐらいが罹患した場合に学級閉鎖の措置を取ることになっています。近隣で発症事例が多い場合には1割強でも対応することもあり、または、きょうだいの学校で学年や学校閉鎖している場合には早い段階で判断することもあります。学校長が近隣の学校と情報交換し、教育委員会の保健部局と連携を取って情報収集をしながら判断します。

広瀬：あくまでも授業時数を確保できる長さ限定されますよね。

小澤：2日もしくは3日間ぐらいの学級閉鎖が一般的です。途中に週末、週休日が挟まれていれば、金曜日から休んで月曜日に登校させて様子を見る、もしくは月曜日まで休み火曜日の状況を見ることもあります。

広瀬：今回のコロナは、全く比較にならないほど規模が大きい休校でしたね。

小澤：ええ。で実際、子どもなりがコロナで発症したという例も学校現場にはありましたし。その子どもの発症状況や濃厚接触者がいるかによっても判断が変わってくると思います。

徐：小澤先生のお話を聞きますと、公立の場合はある程度対応のマニュアルがあるわけですね。私立学校は学校で対応が全然違うようです。登校日の規定やPCR検査に行くか行かないかなど。私立については何かご存知でしょうか。

小澤：私立の情報はあまり入って来ないのですけれど、うちの学校の近くの私立中高は土曜日や日曜日にも学校に来ている子がたくさんいるようです。子どもの数が多いので、学年ごとに対応するには授業の時数やスペースの問題があるからだと思われます。土曜日の午後から登校

して来る子もいるようで、私立はもっと大変だろうと思ったことはあります。公立は、子どもたちや家族に陽性反応が出た場合にわりと早く情報がつかめます。親からだけでなく、保健所から必ず自治体に情報が入りそこから連絡が来ますが、私立の場合はどこから情報を得ているのでしょうか。

4 終わりに

一斉休校に関する情報がどのように流れ、コロナ対応に関して各段階で誰がどのように判断したのか、そして、休校期間の学校の様子がどのようなものであったのかがヒアリングによって明らかになってきた。

2020年の年明けごろに新型コロナウイルス（Covid-19）の感染が報じられてから2月27日の全国一斉の休校要請までは、教育委員会も学校現場も感染に対する警戒心は持ちながらも、最大限インフルエンザレベルのスタンバイであったということである。その段階で想定されていた深刻度は、必ずしもその後の長期にわたる世界的な困難を予見するようなものではなかったようである。

こうした状況は、2月27日の政府からの全国一斉の休校要請によって一変している。都が、市区町村教育委員会が、そして学校が慌ただしく応答する。休校要請情報は、都教委を通じて区教委へ、そして各学校に伝えられている。27日に発出予定の要請情報は、少なくとも前日の木曜日には予備情報として都教委を通じて区教委に届いており、学校によってはすでにその段階で情報を得ていた。都教委から降りてきた休校方針は、区教委の段階で一端独自の判断がなされた上で学校に伝えられ、各学校では具体化にあたってさらに独自判断がなされている。

学校対応を知る上で押さえておくべきは、休校の裏で業務（=教育）は中断せずに継続していたことである。教育委員会及び学校含めて教育現場では、休校要請は教育業務の停止と同義には理解されていなかった。休校対応に当たった現実的課題は、したがって、休校と教育をどう併走させるかということであり、休校対応の裏でまず行われていたのは停止させうる業務とそうではないものの切り分け作業であった。

学校現場が休校要請に可能な限りの業務（=教育）確保というドライブをかけた理由はいくつか考えられる。実際のところ子どもたちを学校外に「放置」し得なかったという現実があったこと、また、休校が終了した後は当然ながら業務確保（=教育内容の保障）をしなければならぬということがまずあげられる。教育委員会も、そうした現場の意向を共有しながら政府、都教委を通じて降りてくる各種要請を調整していたことも伺える。

3月から始まった休校は年度を跨いで翌2020年度まで続く。緊急対応的な休校がやや恒常化

していくわけである。三密回避などの感染対策を前提とした学校運営が新年度に向けて進められていくことになるが、新年度対応及び詳細な考察については別稿にゆずる。

[本稿執筆にあたっては、専修大学社会学研究所特別研究助成、日本教育政策学会会員企画研究会補助、科研費基盤研究 (C)19K02569 を受けた。]

[資料]

以下は、小澤氏提出の発表資料をもとにしたものである。

資料1 新型コロナウイルス感染防止に向けた時系列対応

(令和2年1月)

- 令和2年1月16日 我が国での感染者の確認

感染者確認の報道はあったが、学校現場としてはまだ大きな危機感はなかった

- 令和2年1月21日～24日 スキー移動教室実施

スキー教室での活動は通常通り行ったが、この後、1月下旬から2月にかけての実施校においては、感染への不安が保護者から寄せられ、参加を取りやめた生徒も数人いたことが後に報告があった。2月下旬に実施の学校2校は、実施を中止した。

- 新型コロナウイルス感染症に関する中国帰国者への対応及び感染予防対策

→令和2年1月31日 新型コロナ感染へ注意喚起の家庭通知配布 (資料2)

(令和2年2月)

- 令和2年2月4日 定例校長会にて感染拡大に向けた学校での対応についての指示がでる。

- 2月18日～21日 特別支援学級設置校の連合スキー移動教室実施

移動教室はバス内でのレクや集会行事をなくしスキーレッスンを中心に実施

2月21日 春の子供まつり中止の決定 (資料3)

2月25日 学年末保護者会の一週間開催の延期を通知 (資料4)

学校内及び校長会においての休校や各学年末行事の対応に協議する。中止や延期対応を検討

- 令和2年2月27日 首相よりの学校臨時休校要請が出る

地教委課長と臨時休校への対応に個別に連絡をとる (2/26夜に連絡とる)

各学校とも休校への対応を急遽検討

- 令和2年2月28日 都教委よりの休校対応に関する通知を受け、地教委からの休校要請が

出る

学校より保護者向けの休校対応に関する通知を配布（資料7）

卒業式に向けた規模縮小を捉えた通知を家庭に配布

休校中の学習課題の選定と学習指導を協議

※自校として休校中の学習課題のために契約中の教材配信会社と臨時
配信を協議

※校内で臨時配信の教材を活用することを指示

⇒3月3日以降に教材の使用が可能になる

都立入学選抜発表への対応と生徒指導を協議

卒業式及び卒業関連行事の再考を行い、PTA会長とも協議

○ 令和2年3月2日 臨時休校の実施

1, 2年生は休校対応

3年生は、都立高校入学選抜検査発表の結果を学校に連絡。必要に応じて生徒への事後指導
を行う。

⇒各学年とも毎週1回学習課題の指示等で臨時の登校を行う

⇒3年生は、卒業式直前に事前指導

臨時校長会の開催

卒業式及び卒業関連行事への校長としての意見徴収

☆休校中に電話での生徒の健康確認

☆休校中に感染対策の消耗品、備品等の在庫チェックと補充

☆新年度に向けた準備を休校中に行う。

☆4月に行う予定の1年生移動教室の中止を決定する

※教職員の在宅勤務の指示も出る

資料2 新型コロナ感染へ注意喚起の家庭通知

令和2年1月31日

保護者の皆様

杉並区教育委員会

杉並区立阿佐ヶ谷中学校 校長 小澤 雅人

新型コロナウイルス感染症への対応について

日ごろより本校の教育活動について、ご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

すでにマスコミ報道でもありますように、新型コロナウイルスに関連した感染症は、国において感染症予防法に基づく指定感染症として定められ、学校保健安全法に定める「第一種感染症」とみなされました。

つきましては、下記のことについて、皆様方のご理解、ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

記

- 1 人が多く集まる場所に行く際や、公共交通機関等に乗車する際には、マスク等の着用をお願いいたします。
 - 2 お子さんの日常生活において、こまめに手洗い、うがいを励行するようお願いいたします。
 - 3 インフルエンザ等を含め、学校においては感染が拡大しないよう、最大限注意を払っていますが、ご心配の場合はマスクの持参及び着用をお願いいたします。
 - 4 お子さんに発熱、咳などの呼吸器症状、下痢等の体調不良がみられた場合は、早めに医療機関へ事前に連絡したうえ、マスクを着用して受診をお願いいたします。
 - 5 当該感染症と診断された場合は、治癒するまで出席停止となり、登校することができません。
 - 6 中国から帰国したお子さん又はご家族がいる場合は、発熱や呼吸器症状があるかどうかを確認することと、ご心配がある際は医療機関へ連絡のうえ、受診してください。
- また、症状が無い場合にも、特に帰国後2週間は、武漢市在住の方及び武漢市在住の方と濃厚な接触があった方には外出を控え、自宅に滞在していただくよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。

資料3 春の子供まつりについて（お知らせ）

令和2年2月21日

阿佐ヶ谷中学校区小・中学校保護者の皆様

阿佐ヶ谷中学校区地域教育連絡協議会

会長 阿佐ヶ谷中学校長 小澤 雅人

春の子供まつりについて（お知らせ）

梅花の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本協議会の活動にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については、感染拡大期に備えた対策が必要な時期に入っています。皆様のご心配ご不安については、国、都並びに杉並区においても様々な対策がとられております。

杉並区ホームページ発表においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策が示されているところも踏まえ、令和2年3月7日（土）に阿佐ヶ谷中学校を会場として開催を予定している「春の子供まつり」について、今般の状況を鑑み、中止とさせていただきます。子供たちのみならず、保護者の皆様、地域関係者の皆様ともに楽しみにされ、ご尽力により準備が行われてはおりますが、苦渋の決断をさせていただきました。

つきましては、上記の件について、楽しみにしている子供をはじめとし、関係各位及び保護者の皆様に何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。今後とも、本協議会の活動へのご理解と・ご支援を合わせてお願い申し上げます。

資料4 3学期保護者会について（お知らせ）

保護者の皆様

令和2年2月25日

阿佐ヶ谷中学校長 小澤 雅人

3学期保護者会について（お知らせ）

梅花の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の活動にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症については、感染拡大期に備えた対策が必要な時期に入り、保護者の皆様方もご心配ご不安のことと思います。国、都並びに杉並区においても様々な対策がとられ、杉並区ホームページ発表においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対策が示されているところです。

そこで、3月4日（水）に開催を予定している「保護者会」について、下記のような対応を執ることといたしました。保護者の皆様には、ご予定されていることとは存じますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。今後とも、本校の活動へのご理解と・ご支援を合わせてお願い申し上げます。

記

1 保護者会日程の変更

3月4日（水）→3月11日（水）に変更

開会時間は同様の午後3：00～

2 3月4日現在でも、感染拡大への対応がさらに必要な場合

⇒3月11日（水）の保護者会の開催を中止いたします

※この際には、再度中止の通知を行います。

※尚、本校にご来校される際には、感染防止対策としてのマスクの着用や手洗

い、アルコール等での消毒等のご準備をお願いいたします。

以上

資料5 2月27日小澤氏作成 新型コロナウイルス感染予防の対応についての案一覧

阿佐ヶ谷中学校は生徒への感染予防の観点より以下のとおり対応する。なお、今後の動向により変更することもある。

- 1 3/3 (火)「阿佐中サミット」→ 中止
- 2 3/4 (水)「保護者会」→11日(水)に延期(通知済)
※その後の対応策
①中止 ②学級保護者会に変更して実施→茶話会は中止
- 3 3/6 (金)「能楽教室」→実施(生徒のみで実施)・「3年生を送る会G組」→実施
- 4 3/7 (土)「春の子どもまつり」(阿佐ヶ谷育成員会主催) →中止(通知済)
- 4 3/9 (月)「全校朝礼」→時間短縮マスク着用で実施・「避難訓練」→放送のみで実施
- 5 3/11 (水)「セーフティー教室」→実施(生徒のみで実施)
- 6 3/13 (金)「百人一首大会3年」→実施
- 7 3/16 (月)「生徒会朝礼」→時間短縮マスク着用で実施
- 8 3/17 (火)「卒業式練習・予行」→時間短縮で実施
- 9 3/19 (木)「卒業式」→実施(時間短縮も検討・マスク着用・手消毒) ※通知文参照
- 10 3/28 (土)「吹奏楽部定期演奏会」→中止
- 11 「部活動練習試合」→中止

資料6 卒業式についての当初の(変更前)のお知らせ

令和2年2月28日

3年生保護者の皆様

杉並区立阿佐ヶ谷中学校 校長 小澤 雅人

新型コロナウイルス感染症に関する本校卒業式の対応について

日頃より本校の教育活動に対してご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。

さて、別紙にてお伝えしたように、3月2日より臨時休校となります。このことを受け、裏面の杉並区教育委員会通知の学校対応の通知を鑑み、3月19日に予定している卒業式について下記のとおりの内容に原則変更し実施いたします。生徒一人一人の3年間の阿佐ヶ谷中学校での思い出と友との時間を共有することと共に、新たな門出を祝う趣旨を尊重しながらも、生徒の健康と安全・安心のための感染拡大防止対策と捉え、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

ます。

なお、今後は情勢を踏まえて変更もあることがありますが、その際は再度ご連絡いたします。

記

○参列者の制限及び時間短縮して行います

ア 参列者の制限

来賓は参加せず、保護者は1名程度、教職員及び卒業生、在校生とする。

イ 時間の短縮

国歌斉唱、校歌斉唱、卒業証書授与、校長式辞はこれまでどおり行う。

なお、その他については以下のとおりとする。

- ・区歌斉唱は行わない。
- ・学事報告は、配布した資料をもって報告とする。
- ・区長及び教育委員会連名の祝辞の代読は省略し、校内に掲示するとともに、卒業生、保護者に配布する。
- ・祝電は掲示のみとし、祝電披露は行わない。
- ・生徒による「門出のことば」や「在校生・卒業生代表のことば」、「合唱」は中止の趣旨を捉え内容を変更いたします。

資料7

令和2年2月28日

保護者の皆様

杉並区立阿佐ヶ谷中学校

校長 小澤 雅人

新型コロナウイルス対策について

日ごろより本校の教育活動について、ご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

国内における新型コロナウイルスの感染状況や国や東京都の取組等を踏まえ、感染拡大防止のための対策を講ずることとなりました。東京都教委員会及び杉並区教育委員会より、新型コロナウイルス対策についての学校対策が示されました。これを受け、3月2日よりの下記のとおり対応・措置をとることとなります。

保護者の皆様におかれましては、生徒の安全・安心とともに感染拡大防止の趣旨と捉え、ご理解ご協力をお願いいたします。

併せて、各ご家庭におかれまして、感染拡大防止の観点から、お子様の外出や家庭での生活

に配慮をお願いするとともに、保護者の皆様方もご自愛のほどお願いいたします。

記

1 学校臨時休校

期間： 3月2日（月）より3月25日（水）まで

※但し、3月19日、25日は除く

2 学校行事等の対応

(1) 卒業式・・・内容参加人数を削減して短縮した内容で実施します

参加者・・・卒業生、卒業生保護者、在校生、教職員にて行います

後日 実施に関わる通知を作成配布いたします

(2) 都立高等学校入学選抜に関わり対応

3月2日、3日の発表後の報告は学校に登校し報告をしてください

その後の対応は報告後に生徒個々にお伝えします

(3) 修了式

3月25日に実施します

1, 2年生は午前8時20分までに登校してください

(4) その他の学校での行事・予定及び部活動は全て中止といたします

3 家庭での指導について

感染拡大防止のための臨時休業の措置であること、不要不急の外出等は控え、基本的には自宅で過ごすようにしてください。

手洗い、咳エチケットの励行について指導するとともに、適宜、検温等の健康観察を行うよう御協力ください。

臨時休業期間中の家庭での学習について課題を示しますので、家庭での声掛けなど、御協力ください。

万が一、児童・生徒が感染した場合、あるいは濃厚接触者となった場合には、すぐに学校へ御連絡ください。